

・本号は「歴史を歩く69号飯隈遺跡群発掘調査速報②」に掲載している調査成果一覽を参考にお読みください。



図1 朝鮮半島・近畿地方・大隅半島位置図 ※Google Mapより転載

1、古墳時代の副葬品（鉄製品）とは？

飯隈遺跡群の地下式横穴墓に埋葬されている副葬品が、どのような理由で埋葬者と一緒に葬られたかを考える中で、当時（古墳時代）の交流をふまえておかなければ答えが導かれません。なぜなら飯隈遺跡群の地下式横穴墓から発掘された副葬品は、地元で生産されたものではなく、大隅半島以外の地域からもたらされた可能性が高いからです。今回は副葬品の中でも鉄製品（てつせいひん）からみえる飯隈遺跡群をご紹介します。

まず鉄製品というものが日本に最初にもたらされた時代は、稲作が始まった弥生時代になります。弥生時代から古墳時代に移り、日本列島が国家として統一されていく過程で鉄製品というものが重要になっていきます。この頃の日本ではまだ鉄の鉱石を精製（せいせい）する技術が確立していなかったため、朝鮮半島から輸入した鉄の塊を加工し、武器や農具などを作っていました。そのため、鉄製品というものが貴重な時代で、特に複雑な加工が必要な甲冑類や馬具、金や銀のメッキが施された武器は特定の階層にしか普及されていません。

古墳時代は、近畿地方にあらわれたヤマト王権とよばれる強い力をもった集団が日本を統一していく時代でもあります。ヤマト王権は、鉄を加工する高い技術を背景に武力による統一や貴重な甲冑や馬具を褒美として渡し、他の豪族達を従わせていたとも考えられています。また、鉄を加工する技術は朝鮮半島から日本に渡ってきた朝鮮半島人が関わっていたことも最近の研究で分かってきました。

2、飯隈遺跡群の鉄製品は？

今回実施した発掘調査では、21号を除くすべての地下式横穴墓から鉄製品が出土しています。特に平入りと呼ばれる竪坑に対して横向きに玄室を掘る墓から複数の鉄製品が出土しています。なかでも23号から出土した鉄製品※1には刀もみられます。女性と一緒に刀のような武器と一緒に埋葬されている例は、大隅半島では2例目という非常に珍しいお墓です。この女性は戦いの女神だったのでしょうか。

副葬品には2つの意味があるといわれ、亡くなった人が生前使用していたものを一緒に埋葬したか、それとも亡くなった人を敬うため、あえて鉄製品を埋葬した可能性があります。この2つの意味から23号の女性に対してどのような背景から武器が埋葬されたのか様々な想像がめぐります。

最後に、本発掘調査で出土した鉄製品のうち、特に武器類は地元で製造された可能性は低く、やはり他の地域からもたらされた武器であると予想されます。現段階では詳細は不明ですが、今後さまざまな分析を行い、この鉄製品がどのようなところからもたらされたのか明らかにしていきたいと思えます。もしかすると、横瀬古墳に眠る人物が飯隈遺跡群に葬られた人々に与えたものかもしれません。

次号⑤では貝製品からみえる飯隈遺跡群をご紹介します。

※1…詳しくは「歴史を歩く69号飯隈遺跡群発掘調査速報②」参照。

大崎町教育委員会 大野泰輔

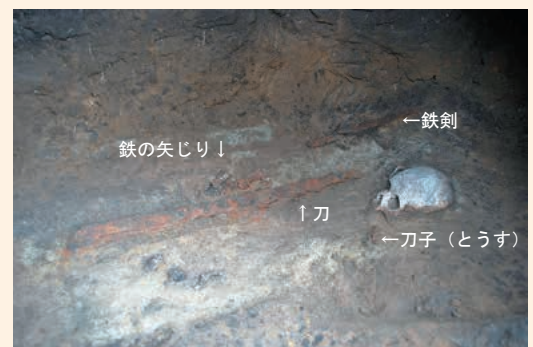


写真1 23号出土鉄製品



写真2 23号出土鉄製品(拡大)